

2025. 8月

東北芸術工科大学、大江町、山形県立左沢高等学校との 人材育成及び地域活性化に関する包括連携協定締結

左沢高校に芸術・美術分野に特化した履修モデルを構築

左沢高校の総合学科では、これまでも地域・芸術・美術に関する選択科目がありました。この選択科目にクローズアップし、より一層、創造力や表現力を育成します。そのような力を育成するために、芸工大の先生による特別講義やワークショップを実施し、専門性の高い教育を提供する計画です。

自治体推薦枠

東北芸術工科大学への「自治体推薦入試」が導入されます。芸術学部や企画構想学科への推薦枠となります。絵を描きたい！小説を書きたい！地域の文化を学びたい！デザインに関する学校に進学したい！など、興味をより専門的な学びにつなげることができます。自治体推薦枠の条件はありますが、明確な目的があり、真面目で健康であれば、クリアできると考えています。

もちろん、芸工大以外の大学や短期大学、専門学校、各種学校、民間就職、公務員など、興味・関心に応じた学びが進路につながる高校です。

237(55)2532
237(43)7333
237(86)4241
報をお寄せください

次世代担う人材育成へ 町、左沢高、芸工大 3者が協定締結

大江町（松田清隆町長）、左沢高（広谷久美子校長）、東北芸術工科大（中山ダイスケ学長）の3者による包括連携協定の締結式が7月31日、同町役場で行われた。次世代を担う人材育成や地域活性化を目的としており、高校では芸術科目の充実を図り、同大への進学にもつなげる。

町と同大はこれまで、町内の空き施設の活用策を共同で検討し、まちなか交流館「ATERA」をオープンさせた他、町内での実習活動、調査・ワークショップなど多様な連携を行ってきた。協定には、選択履修科目にデッサン基礎やデザイン基礎などがある左沢高も加わり、▽芸術・美術に特化した同校履修モデルの構築▽大学教員による特別講義▽同大への「自治体推薦入試」の導入▽生徒や学生の地域づくり事業への参画などを盛り込んだ。

締結式では中山学長が「地域の活力につながるよう全力で取り組む」とあいさつした。松田町長は「生徒や学生が町に元気を与えることを期待している」、広谷校長は「人材育成を進め、学びを地域に還元できたらいって語った。」

（高野周平）

包括連携協定を結んだ（右から）中山ダイスケ学長、松田清隆町長、広谷久美子校長＝大江町役場

△山形新聞 8/7

探究学習のブラッシュアップ

これまでも、本校では、総合的な探究の時間や課題研究など探究的な学びは充実していました。特に、必修履修科目「総合的な探究の時間」では、2年次が「課題探究Ⅰ」として、地域の方々と一緒に地域の課題を解決するべく行動することを目的として進めてきました。協定を受けて、ここでも、芸工大の先生や学生が参画することになります。地域の魅力を再発見するとともに、高校生が地域で行動することで、課題解決を目指しています。

左沢高校 HP→



△探究 DAY(中間発表会)